

平成27年度福島県学力調査結果から見えた

英語科の課題と今後の対策 その1 /2

県学力調査結果から（会津）

成 果



※ 本年度から県の設定した目標値と比較しています。

- ① 今まで課題であった「3文以上の英作文」の正答率が、目標値にかなり近づいた。単元末などに「まとまりのある英文」を書く時間が確保されている成果だと思われる。
- ② 様々な英文の読み取りは、全ての設問で目標値を上回った。タスクを課した読み取り活動の充実が窺える。

課 題



※ 下位層、特に正答率30%の生徒の割合が増加した。

- ① 語形・語法の知識・理解を問う問題の正答率が低い。全ての設問で、目標値を下回っている。
- ② 単語の並べかえによる英作文、場面に応じて書く英作文の正答率が目標値に比べ低い。場面に応じて書く英作文は無答率が43%と高い。

各校で、生徒ができなかった点を振り返り、授業改善につなげてください。

会津域内で正答率の低かった問題の具体例を確認し、今後の対策を提案します。

今回は、課題①について見てみます。

正答率の低かった問題（会津）

※ 県学力調査の問題は公表できないため、同様の問題を示します。（定着確認シートから）

課題① 語形・語法の知識・理解を問う問題

例 次の(1)～(3)の対話文が成り立つように、()内に入る最も適切なものを、あのア～エから選び、記号で答えなさい。

- (1) [休み時間に] A: () Kenji play baseball every day?
B: Yes. He likes it very much.

ア Is イ Do ウ Does エ Did (H27 2年第1回)

[会津域内の結果] 正答率や誤答傾向から

▲ 全ての設問で目標値を下回った。次の2問については、目標値を大きく下回っている。

- ・上記例のような「三単元の疑問文」



昨年度から課題が改善されていない。（今回も昨年同様の問題が出題されている）
・be going to の後に動詞の原形を選択する問題
形の似ている進行形の ing の混同が見られる。

今後の対策

「語形・語法」の定着に向けた指導

課題①

「語形・語法」については、ここでは文法事項と置き換えます。

対策1 新文法事項指導の際は、次の授業の流れを意識する。(言語活動と関連付けた文法指導)

※ 個々の取組・理解状況等を確認し、できていなければフィードバックするなど丁寧に授業を進める。(下位の生徒を意識する) 安易に先に進めない。

1	英語での導入	「思考」する聞く活動にする。 ・まとめた英文(新文法事項を含む)を聞かせる。写真、絵、画像等を、理解を補助するために活用するとよい。その際、新文法事項に生徒が『気付く』ことを大切にする。 ・生徒とのインテラクションにつなげる場合が多い。
	〔生徒の理解〕	・生徒の『気付き』を確認しながら簡潔に行う。
2	練習活動(定着)	・定着のためのドリル活動などを行う。
3	コミュニケーション活動(活用)	・意味のある(内容の相互伝達のある)活動を行う。2の練習活動とは違い、「思考」して英語を活用する活動にする。 ・話す活動であっても、最後に話した内容などを書く活動で終えることも大切である。

ポイント



- 1 「気付き」—理解—定着のための練習—活用 の流れを意識する。「文法解説+定着のためのドリル活動」だけでは、活動に生徒の思考が伴わないことが多いため、長期記憶につながりづらい。
- 2 「聞く活動」から始める。言語習得の流れに沿うだけでなく、聞く力は、一般的に学力差が少ないため、下位生徒も意欲的に取り組めるようになる。
- 3 日本語での説明は補助的なものと考える。

対策2 年間を通して、次の点を意識して指導する。

定着確認シートの活用

- やや長いスパンでの生徒の理解や定着の状況を確認し、指導に生かす。

計画的、繰り返し活用する機会の設定

- 文法事項等は、定期的に意味のある文脈の中で繰り返し活用する機会を与える。
- 疑問文、否定文なども、様々な場面や状況を設定して練習、活用させるようにする。

他の文法事項と関連付けた理解促進

- 関連のある文法事項をまとめて整理をする時間を設ける。特に混同しやすい文法事項については、誤用の具体例を示しながら確認する。

総合的な言語活動の設定

- 単元末には、学習した文法事項や既習事項を生徒が自由に活用できる活動(思考を伴ったもの)を設定する。

書く活動でのまとめ

- 活動の振り返りでは、書くことで確認する。

各校では、自校の結果を分析し、これらを参考に継続実践できる具体策を講じてください。